

【賞の紹介】

武田医学賞は、我が国の医学界で顕著な業績を挙げ、優れた貢献を果たされた研究者に贈呈される。毎年、推薦された候補者の中から当財団の選考委員会で受賞者2名を決定し、11月に挙げる贈呈式において各々に賞状、賞牌、楯ならびに副賞2,000万円が贈られる。武田医学賞は、武田薬品工業（株）の創業170周年記念事業の1つとして1954年から実施されてきたものを財団設立と同時に継承し、今日に至っている。2021年度までに134名の研究者に武田医学賞が贈呈された。（武田科学振興財団ホームページから引用）

【受賞内容に関する解説】

藤木 幸夫 博士 研究業績

受賞テーマ： ペルオキシソームの形成と欠損症研究によるオルガネラ病概念の確立
研究業績：

ペルオキシソームは脂質代謝や過酸化水素の生成・消去系など様々な生物学的に必須な代謝機能を担う細胞小器官（オルガネラ）である。藤木博士は、ペルオキシソーム形成が異常な10数種の細胞株を樹立し、それらを用いて、ペルオキシソームの形成に必須な数多くの因子(ペルオキシシン)を発見、ついで重篤かつ原因不明であったペルオキシソーム欠損症の病因遺伝子を網羅的に解明することに成功した。さらには、モデルマウスを用いてペルオキシソーム欠損症の病態発症機構も解明した。最近では、ペルオキシソーム酵素である過酸化水素分解酵素、カタラーゼが酸化ストレス下には細胞質へ集積して細胞死を抑制する機構、すなわちカタラーゼのオルガネラとサイトゾルの両局在を基軸とした極めて重要な生理作用調節の存在を発見した。これら一連の研究成果はペルオキシソーム欠損症を遺伝子、分子および個体レベルで解明するとともに、ペルオキシソームに新しい視点を与える独創性が非常に高く、オルガネラ恒常性（オルガネラスタシス）とその破綻によるオルガネラ病という新しい概念を創生し、大きな波及効果を生み出した。このように、藤木博士の業績は世界に誇るオンリーワン研究であり、この分野の開拓者として国際的な評価は極めて高い。（武田科学振興財団ホームページから引用）

【受賞者紹介】

藤木 幸夫 博士 略歴

学歴・職歴

1971 年 3 月 九州大学農学部 卒業

1971 年 4 月 九州大学大学院農学研究科修士課程 入学

1976 年 3 月 九州大学大学院農学研究科博士課程修了、農学博士取得 (7 月)

1976 年 7 月 コーネル大学博士研究員

1979 年 7 月 ロックフェラー大学上級研究員, 助教授

1985 年 7 月 明治乳業(株)ヘルスサイエンス研究所主任研究員, 研究室長

1994 年 4 月 九州大学理学部生物学教室 教授

1999 年 4 月 九州大学大学院理学研究院生物科学部門 教授

2009 年 5 月 九州大学 主幹教授

2010 年 10 月 九州大学 理事・副学長 (担当: 研究、国際)、
稲盛フロンティア研究センター長

2014 年 10 月 九州大学 カーボンニュートラル・エネルギー研究所 (WPI プログラム) 支援部門長, 特任教授 九州大学 名誉教授

2015 年 4 月 九州大学 生体防御医学研究所 特任教授

2019 年 4 月 九州大学ーレオロジー機能食品研究所 共同研究プロジェクト 研究代表

2021 年 9 月 兵庫県立大学 特任教授

受賞歴

2015 年 12 月 日本生化学会 第 10 回柿内三郎記念賞

2019 年 11 月 西日本文化賞 学術文化部門

(武田科学振興財団ホームページから引用)